

第Ⅲ期 2019年度～2021年度の管理運営ならびに 2022年度の管理運営状況等について



－ 目次 －

<1>，第Ⅲ期 2019 年度～2021年度の管理運営について P6

1-1，賑わい創出について

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 新規での取り組みについて | P7 |
| (2) 従来からの取り組み | P13 |
| (3) イベント | P16 |
| (4) ロケーション撮影 | P17 |
| (5) オープンカフェ | P18 |
| (6) 独立型店舗 | |

1-2，現場管理（警備・清掃・イベント管理） P19

1-3，連絡・調整会議（大阪市建設局、南海電鉄理） P22

1-4，令和 3 年度 かわまち大賞の受賞

1-5，遊歩道でのアンケート集計概要（2019 年 9 月実施分） P23

<2>，2022 年度の管理運営状況等について P25

2-1，賑わい創出 P25

2-2，現場管理（警備・清掃） P29

2-3，収支（2022 年度 実績見込） P34

参考資料 2019 年度～2022 年度

- | | |
|---------------------------|-----|
| (1) 伝統行事、行政・地元主催イベントの一例紹介 | P35 |
| (2) その他イベントの一例 | P46 |
| (3) 船上PR 一例紹介 | P51 |

<1>、第Ⅲ期 2019年度～2021 年度の管理運営について

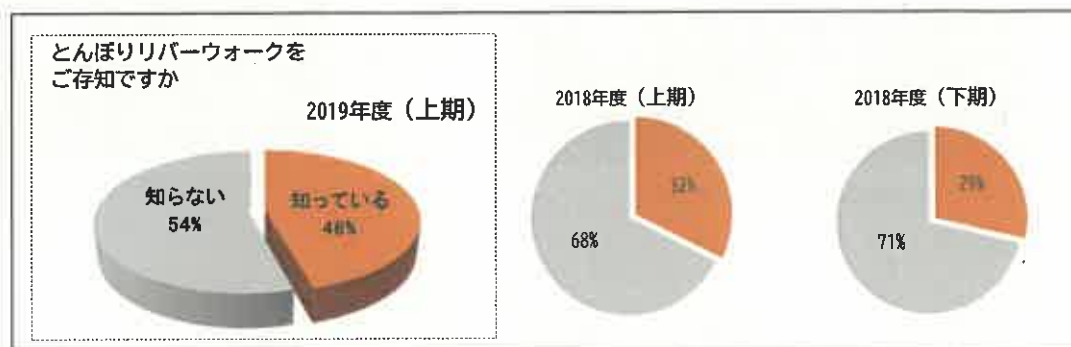
第Ⅲ期の管理運営にあたり、本事業公募における南海電鉄の提案や過去の通行者アンケートなどを基にした取組目標を定めて推進しました。

初年度 2019 年度から、新たな収入基盤を確保しつつ、多様な賑わい創出への取り組みを進めた結果、イベント等を含めた開催件数は好調に推移し、賑わい効果と安定的な収入確保に繋がり、一定の収益を活用して維持管理面の質向上にも取り組みました。

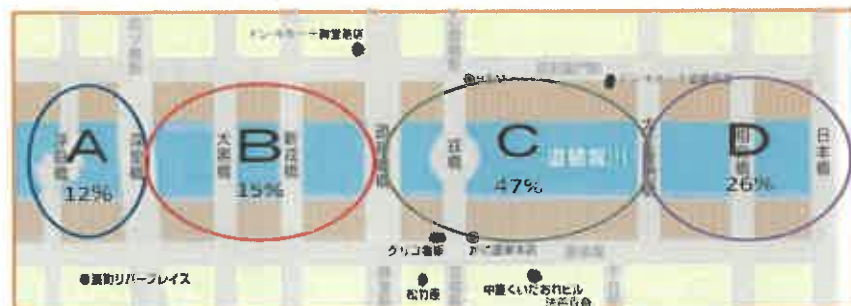
しかしながら、2019 年度の終盤から「新型コロナウイルス感染症」拡大防止対策によって、特に 2020 年度からは、イベントの開催自粛要請などで必然的に植栽や展示関係による非接触での取り組みが中心となり、賑わい効果も「創出」ではなく「喪失」の期間となりました。

●管理運営での 2019 年度からの取組目標

- ・知名度向上で認知度を改善
- ・遊歩道の東西均一的な賑わいで回遊性向上
- ・安定的な収入確保で維持管理のさらなる質向上
- ・安全、安心な遊歩道



<図1 遊歩道通行者アンケート調査から抜粋>



<図2 遊歩道の各エリアにおける通行者割合 2018 年度>

1-1, 賑わい創出について

(1) 新規での取り組み

① 新ロングボード広告枠 2019年5月～

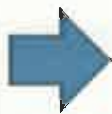
広告掲出がない年度もあるなど収入も不安定かつ、掲出の有無に関わらず発生する占用料等の維持費用が負担となっていたが、掲出有無に左右される従来方法を転換し、2019年度から新たに広告枠部分(場所)を複数年で貸出し、安定的な収入確保とPR効果による賑わいを創出しました。

従来	縦 2m×横 25m× 1面の広告枠	広告掲出時に収入
新規	縦 2m×横 1,5m× 16面の電照式広告枠	年間で広告枠組み貸出しでの収入

- 年度ごとの固定広告収入による効果 (安定収入)
- 来場者によるSNS投稿等による「とんぼりリバーウォーク」の宣伝効果 (PR効果)
- 広告撮影等による遊歩道への来場者増加による賑わい創出 (来場動機)



以前のロングボード広告



新たに 16 面のパネル広告枠を設置



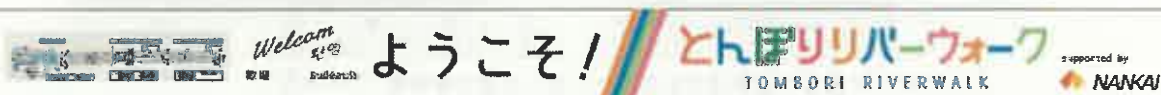
広告物を撮影している来場者。



電照式で夜間も明るく防犯性向上

② とんぼりリバーウォーク表示マップ(目隠しパネル) 2019年5月～

前述①の新パネル広告枠により、使用しなくなった旧ロングボード枠を日本橋付近の目隠しパネルに移設活用し、「とんぼりリバーウォーク」名称およびマップ表示物を掲出。これにより、日本橋(堺筋)側の通行者にも「とんぼりリバーウォーク」への誘客と認知向上に繋がられました。



目隠しパネルに名称と多言語マップを掲示。(サイズ: H 2m × W 25m)

③ とんぼりリバーウォーク表示(床面ラッピング) 2019年5月～

知名度向上対策として、遊歩道にある各橋の階段下などに「とんぼりリバーウォーク」名称を床面ラッピングにて表示。(計26ヶ所)



④ 花壇への「ひまわり」植栽 2019年6月～9月

2019年度から西側エリア活性化策のひとつとして、大黒橋の右岸(北側)エリアの広場花壇に小型の「ひまわり」を計560株植えました。当初の課題が水やりでしたが、従来から使用されていなかった灌水装置が稼働したため、実現されました。

期間中には全面植替えも行い、陽当たりもよく、華やかさを維持しつつ訪れる方も増え、写真撮影の場としても変貌しました。

今回の実証で得られた副次的な効果として、そのエリアでのゴミ放置がほとんど無くなり、特に花壇周りではそれが顕著に現れていました。



⑤ 花壇等への植栽【取組強化】 2020 年春～

2019 年度は、右(北)岸において、試行的に 6 月から約 4 ケ月間に小型ひまわりを植えましたが、景観だけでなく好評を得られたことと、ゴミ減少などの効果も得られたため、2020 年度は大黒橋の両岸エリアへも拡張し、また季節ごとに花を植替え花壇を彩りました。新型コロナ禍のなか、花を通じて華やかさと安らぎの空間を提供しました。

また、他のエリアでも植栽の課題であった水やり・植替え等の維持管理費用の軽減に取り組みつつ景観維持を念頭にフェイクフラワー(造花)のプランターを設置しました。こちらも定期的にカラーリングを変えた花を配置するなど季節感あふれるスポットとして進めています。

④大黒橋周辺の花壇(両岸)への花植え(定期的な植替え実施)



<春 キンギョソウ>



<夏 ひまわり>



<秋 ケイトウ>



<冬 パンジー>

⑨新戎橋～大黒橋(両岸)のコンクリート製植栽マス等へのフェイクフラワー(造花)設置



新戎橋～大黒橋間の通路



大黒橋下の通路に設置し座り込みを防止



◎相合橋～太左衛門橋(両岸)へのフェイクフラワー(造花)のプランター設置



定期的にプランターは入替(花の種類変更)

⑥ ウォールアート(道頓堀アート) 大黒橋～新戎橋 間 2019年7月～

南海電鉄として、西側エリアの落ち着いた空間をアートにより演出し、遊歩道への来場動機に繋がる賑わいを創出したいとの思いから、新規施策の中核に位置付けて取り組みを始めたウォールアートですが、第1弾として、2019年7月に10作品完成後から情報番組や新聞等でウォールアートの取り組みなどが紹介され、作品も順次追加し 2022年12月末で23作品を掲出しています。

【ウォールアート掲出内容】

企業協賛広告

■左(南)岸 2019.7



■右(北)岸 2019.7



■左(南)岸 2019.8



2020.4月末終了



■左(南)岸 2019.9



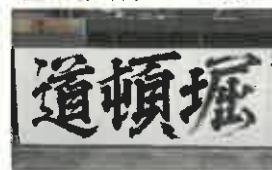
■左(南)岸 2019.10



■左(南)岸 2019.10



■左(南)岸 2019.11



■左(南)岸 2020.2



■左(南)岸 2020.3



■左(南)岸 2020.4



■左(南)岸 2020.12



■左(南)岸 2022.11



■左(南)岸 2022.12



現在の様子



ウォールアート設置前の様子
【大黒橋～新戎橋間 左(南)岸】

⑦ Information ボードへの広告(試行実施) 2019 年 12 月～

とんぼりリバーウォークや周辺マップなどを掲示している「Information ボード」を活用し、試行的に道頓堀川でクルーズ船を運航されている会社とタイアップして有料広告を掲示しています。

掲示物は、広告としてのみならず、橋から川への飛び込みやゴミ等の投げ込みへの危険行動に対して警鐘を鳴らすべく、注意喚起を含めて周知を図りたいとの目的もあります。



遊歩道の両岸に計 14 ヶ所ある「Information ボード」。

とんぼりリバーウォークの利用促進案内



640mm × 470mm のポスター広告を掲示。

危険行為への注意喚起

⑧ 戎橋での大阪モデルのライトアップ実施 2020 年5月26日～8月31日

道頓堀商店会、宗右衛門町商店街振興組合、戎橋筋商店街振興組合、心斎橋筋商店街振興組合で構成される四商店街代表者会議との共催で、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う自粛要請・解除等の大阪府独自の基本的な考え方「大阪モデル」に基づく警戒基準の到達レベルに合わせた戎橋のライトアップを実施。

また、国連が定める「世界難民の日」(6月20日)の啓発としての「国連ブルー」と、さらに医療現場等の最前線で新型コロナウイルス感染症の感染リスクと向き合いながら、日々私たちの命と健康を守るために最善を尽くしていただいている方々に感謝の意を込めて「ブルー」のライトアップも実践しました。

【ライトアップ内容】 2020 年

グリーン ⇒ 5/26～6/19

ブルー ⇒ 6/20～6/30)

イエロー ⇒ 7/13～8/31(終了)



⑨ 道頓堀橋下通路 開門時間の延長および常時通行の実施 2019年11月(段階試行)～

閉門により深夜帯の東西往来を制限していた通路の門扉開閉について、2019年11月から、試行的に開門時間を1時間延長、2020年8月から常時開放の試行期間を経て、大阪市はもとより所轄警察署や地域とも情報交換を図りながら、特に通行者の安全面に配慮しながら進めた結果、2021年4月から24h常時開放の本格稼働に至っています。

下記、表①通行量推移では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の各対策期間と連動した増減が顕著に表れていますが、深夜帯にも関わらず通行者は一定数あることが判明しました。



夜間閉鎖時（道頓堀橋下）

<道頓堀橋下の通行可能時間の変更歴>

- 2019年10月以前 05:00～24:00 19h 通行可 (00:00～05:00 閉門)
- 2019年11月以降 05:00～25:00 1h 延長通行 (01:00～05:00 閉門)
- 2020年8月以降 00:00～24:00 5h 延長通行 (24h 常時開放)
- 2021年4月以降 24h 常時開放 本格実施

<表① 開門延長時間の通行量推移（道頓堀橋下の両岸(南北岸)通路)>



⑩ 道頓堀橋下通路 中央区による賑わいパネル展示 2020年10月～

江戸時代から令和にかけての道頓堀を紹介した「いまむかし」パネルやまちが育んできた芸能・文化・今日の賑わいの様子などを伝える大型パネル(多言語解説あり)を計30枚に集約し、大阪市中央区役所主催で南海電鉄と設置しました。このパネル展は、左岸(南岸)で開催しています。



(2) 従来からの取り組み

⑪ 地元小学生による花植え 2019年5月、10月

太左衛門橋～相合橋間の両岸に設置したプランター40基に、校外学習の一環として地元小学校にご協力をいただき、2015年度から季節の花を植えてきました。道頓堀川への親しみと花言葉に関するクイズなどを通じて、小学生に草花をより一層身近に感じていただけるよう趣向を凝らした講話を行った後、児童たちは元気いっぱいに花を植えていました。

- 2019年5月21日 実施 大阪市立高津小学校 2年生 22名 「ペゴニア」の花植え
- 2019年10月9日 実施 大阪市立難波元町小学校 5年生 26名 「パンジー」の花植え



⑫ 写生画展示(小学校の写生授業) 2019年8月～2020年3月(写生授業6月)

2019年度で5年目となる大阪市立南津守小学校の写生授業が実施され、6年生93人の児童たちが熱心に写生に取り組んでいました。完成した写生画は、例年8月中旬から約2ヶ月間にわたり新戎橋～道頓堀橋間の遊歩道にある目隠しパネルに展示していましたが、賑わいの創出の観点からも2019年度は、児童が卒業する2020年3月まで延長しました。ウォールアートとの相乗効果により、遊歩道西側エリアはアートな空間が出現しました。

- 写生授業実施日 2019年6月6日



- 写生画展示期間 2019年8月14日～2020年3月末



展示前の遊歩道風景。



展示後の状況。



掲示物の一例(写生画と紹介パネル)。

⑬ とんブラ 2019「水辺でアートと乾杯！」 2019 年7月7日

2019 年で 8 回目を迎えた南海電鉄主催イベント「とんブラ」は西側エリアで開催し、コンパクトかつ他イベントとの協同的なイベントで実施しました。

当日は七夕で日曜日。七夕用に装飾した笹を川側の柵に設置して、来場者が短冊に願い事を書いて飾るという七夕の雰囲気を感じていただく内容でした。参加者は、お子様からご年配の方まで幅広く、家族やグループでお越しいただく方が中心でした。

また、それ以外の目的として、西側エリアの特に大黒橋付近では、普段からイベント実施の機会も殆どないため、付近のポテンシャルを図り今後に活かすことやウォールアート作品のライブペイントの実施日にも合わせたこと、さらにはミズベリングの「水辺で乾杯」のアクションも取り入れて、それぞれに関心を持っていただけるように、相互案内を行うなど複合的内容で開催しました。



・とんブラ 約100名が参加



・道頓堀アートサミット(ウォールアート ライブペイント 7/5~7) 観覧者 延べ1,500 名



・水辺で乾杯！ 約 200 名が参加



⑭ 2019 イルミネーション 2019年10月13日～2020年3月15日

冬の遊歩道での賑わい創出と回遊性向上を目的として、イルミネーション「光と水のワンダーランド」を開催しました。「大阪・光の饗宴」のエリアプログラム「まいどおおきに！大阪ミナミ光マッセ！」の一環としても毎年参加しています。

2019年度は、開催期間を約2ヶ月延長するとともに、戎橋と大黒橋のライトアップに加えて新たな趣向を西側エリア中心に展開、また道頓堀橋下の通路にも装飾を施すのと同時に通路閉鎖時間を試行的に1時間短縮し、東西回遊性のテストをあわせて実施。

大黒橋エリアではフォトスポットの増設により、周辺が明るくなり防犯的にも寄与しただけでなく、外国人観光客なども記念撮影されるなど好評を得て遊歩道への誘因を実現しました。



地域団体の協力で設置したツリー。



大黒橋付近のフォトスポットで記念撮影している様子。

【2019年度のポイント】

■【道頓堀 橋下通路の装飾】

・通路の天井部に LED ネットフェンスにて装飾し、両サイドの白色蛍光灯をブラックライトの蛍光灯に変えて通路全体で普段と違った空間にしました。

※2019年10月～2021年度末まで常設設置。



設置前の通路内部



設置後



※参考画像 蛍光灯型ブラックライト

■【フォトスポット】

・道頓堀川を背にして撮影を楽しめるフォトスポットを大黒橋下の空間とその付近に追加設置して、西側エリアへの誘因を実現しました。遊歩道からだけでなく、道頓堀川を航行するクルーズ船からも西側エリアの新たなコンテンツとしてお楽しみいただきました。



大黒橋下のイルミネーション



大黒橋付近のフォトスポット

⑮ **2020 イルミネーション** 2020年10月30日～2021年3月21日

前年度で実施した道頓堀橋下の通路への装飾は、通路の開門時間延長等の試行実施もあり通年で設置し、東西回遊性の向上テストを継続。

⑯ **2021 イルミネーション** 2021年10月29日～2022年3月6日

新型コロナ禍により、周辺も含めた通行者の減少で、特に夜間では、ライトアップの明かりによる防犯対策面にも意識し、西側エリアを中心に展開。

(3) イベント

2019年度からのイベントでは、遊歩道の床面にラッピングをしたPRイベントをはじめ、今まで実施することがない方法でのイベントを多種実現することができ、以後のイベント実施における新たなモデルケースとなりました。

床面へのラッピングによるPRイベント 2019年5/29～7/2 戎橋～太左衛門橋間



右(北)岸 上段部 足跡



左(南)岸 ゴジラ



SUPでのPRイベント(2019年)



遊歩道と台船を飲食スペースで利用した「ギョーザイベント」(2019年度)

(4) ロケーション撮影

2020 年度以降は、大規模なテレビ中継などの実施はないものの一定件数のドラマ、CM 等の撮影は行われました。



撮影前の準備状態



画像① 2019.10.29 NHK 大阪放送局「わが心の大阪メロディ」 中継の様子

【2019 年度～2021 年度に実施されたロケーション撮影の一例】

イギリスTV番組	「ラグビーWCホスト町紹介」
日本テレビ放送網	「女芸人 No.1 決定戦 THE W 2021」
讀賣テレビ放送	「朝生ワイド す・またん!」、「あさパラS」
TBSテレビ放送	「水曜日のダウンタウン」
関西テレビ放送	「Aえ! groupのええ! 関西プロジェクト」、「関西ジャニ博」
テレビ朝日放送	「やすとも・友近のキメツケ! ※あくまで個人の感想です」
NHK大阪放送局	「音楽チャンプ」
	「第 19 回 わが心の大阪メロディ」生中継 (※画像① 参照)
	「新日本風土記」
映画撮影	「ボイス」、「haiku#87」
ドラマ撮影	TBSテレビ「義母と娘のブルース」
	関西テレビ「新・ミナミの帝王」
	NHK「だから私は推しました」
テレビCM	茜丸CM
	関西テレビ・ゴジラトリックアート告知CM
	JR東海 CM
	株式会社クボタ CM
	任天堂 CM
	TeeRex CM
WEB CM撮影	関西電気保安協会CM
	日本紹介動画(ドバイ万博用)
	JNTO(インド向け動画)
	アパレルショップ WEB CM
スチール撮影	経産省「大阪万博誘致アプリ」用素材



など

(5) オープンカフェ

「湊町右岸(北岸)エリア全体の利活用」での試行実施による該当2店舗においては 2019 年度以降も継続して拡大利活用が実施され、うち1店舗では店舗前にある花壇植栽の植替えやメンテナンスも含めて取り組んでいただいています。(画像②参照)



画像② 湊町右岸エリア全体利活用事例 (店舗「8G」花壇植栽の維持)

新型コロナ禍の影響による沿川店舗への間接支援として、通常の長期利用割引施策と合わせて 2020 年度のオープンカフェ利用料金 3 ケ月分を減免(約 2,600 千円相当)して協力しました。

オープンカフェ 月別営業(契約)店舗件数										【凡例: 最多 最少】	
月別	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
4月	4	9	14	17	24	30	36	42	30	9	
5月	4	10	14	18	27	32	37	42	30	9	
6月	4	10	14	19	27	36	37	42	31	10	
7月	4	13	14	20	29	36	37	44	32	16	
8月	4	13	15	21	31	38	38	45	31	16	
9月	6	13	16	21	31	38	40	45	33	16	
10月	6	13	16	22	30	36	43	45	32	22	
11月	7	11	15	19	29	34	44	45	32	22	
12月	8	11	17	21	28	31	42	44	30	24	
1月	7	11	15	20	26	32	41	40	29	24	
2月	7	11	15	19	26	32	42	41	29	25	
3月	7	11	15	19	24	33	41	41	29	25	
年度累計	68	136	180	236	332	408	478	516	368	218	
前年差		68	44	56	96	76	70	38	-148	-150	

(6) 独立型店舗

2019 年度、初期費用を抑えつつ最小限のスタッフで運営でき、かつ小回りがきく「キッチンカー」での営業展開を模索し、遊歩道への車両乗り入れと販売スペースが確保できる場所として、大黒橋エリア(左(北)岸)での営業検討を進め、出店者も決まり付近店舗等との調整と利用契約も終わっていましたが、出店者の都合(車両改造と申請、スタッフ確保などの諸問題)で、営業開始にいたりませんでした。

■ 大黒橋エリア 2019 年 9 月～11 月までスイーツをメインに出店予定だった場所



キッチンカー(右) と テーブル等設置予定下段(左)

1-2. 現場管理(警備・清掃・イベント管理)

警備業務は、防犯カメラでの監視活動のほか、遊歩道での事故・トラブルの未然防止と安全確保、施設等の保安全管理や不法占用の情報連携など多岐にわたる業務を 24 時間体制のもと活動しています。迅速な対応を求められる緊急時には、現場にかけつけて一次的な対処と警察官や救急・消防隊員などとも連携を図ることも重要となります。そのため、遊歩道管理に携わる警備員は、安全かつ適切に業務を履行すべく、定期的な研修等に参加し資質の向上に研鑽しています。なお、研修等につきましては、警備員だけではなく、遊歩道で業務に就く清掃担当をはじめイベント等で現場管理を担う賑わい担当者らも業務の安全遂行や各業務区分に応じた研修に参加して業務に努めました。

上記以外にも、南海電鉄と現場管理の各責任者により定期的な会議を開催し、諸問題の情報共有とその対策検討等、安全かつ適切な遊歩道管理を推進しました。



【 警備担当への座学研修 】



【 清掃担当への
救助浮輪取り扱い研修 】



【 関係者での連携会議 】

<維持管理面での課題と対応>

- (1) 大黒橋下通路での日中・夜間を問わず座り込みが発生し、ゴミ放置や通行への影響がありましたが、対策として物理的に座れるスペースをなくし、なおかつ景観・美観向上と廃棄予定のフェイクフラワープランターの設置活用で改善を図りました。

実施対策ポイント

- ① 座り込みスペースを無くす
- ② 景観・美観の向上
- ③ 廃棄前プランター活用でコスト不要



- (2) 新型コロナ禍により、遊歩道における特に夜間帯での集団飲食などが目立つようになりました。警備担当者が発見次第、遊歩道での座り込みや通行支障への注意喚起などの対応を行いました。



- (3) 戎橋のもとに深夜でも多数の未成年者が集まるなど、社会情勢によって課題も変化しています。事件被害等への未然防止も含めて警備担当者による注意喚起や対話、警察官の巡回強化を図っていただいています。



警察官による巡回の様子(戎橋下)

- (4) 近年、問題となっている遊歩道でのスケートボード利用は、通行者等への危険な行為だけでなく施設破損や騒音等が発生するため、ピクトグラムを活用した掲示や行為を発見次第、警備担当者の声掛けによる注意指導に取り組んでいます。ただ、多人数でのグループで行っている場合や日本語が理解できない方も多く、警備担当者に対する第三者行為被害もあるため交番と連携を図りつつ対処しています。



ピクトグラムを用いた禁止掲示



遊歩道でのスケートボード使用状況

- (5) 毎年恒例となっているハロウィンやカウントダウンでの戎橋等からダイブなどの危険行為や雑踏警戒につきましては、地元との情報交換、所轄警察署と事前会議を開催するなど対応策の調整と連携を行っています。



2020.1/1 カウントダウン(12/31)の状況



カウントダウン後のゴミ状況



戎橋トイレ上から案内警戒



御堂筋側にフェンス(道頓堀橋)



年末の戎橋周辺(2021.12.31)

- (6) 遊歩道での飲食後のゴミ放置。近年は、コンビニエンスストア等からの持ち込みにより空き瓶や食べ残しを含めた残置物が多く、ベンチや階段付近に集中している状況です。残置物があるとカラスやネコなどが周囲にまき散らすこともあるので、ゴミ散乱が酷い場合には夜間や早朝巡回時の警備担当者の助力も得ながら環境美化に努めています。また、地域企業・団体等も独自で清掃活動を行っていただいています。



●遊歩道のさらなる美化向上を目指して清掃日数の見直し。

2018年度 160日分(週3日+α)

2019年度 250日分(週4.5日+α) 前年+90日

2020年度～ 265日分(週5日+α) 前年+15日

※清掃日以外にも南海電鉄担当者にて自主清掃を行っています。

- (7) 2022年2月頃から、広範囲にわたる遊歩道および周辺において、鳥の糞害が発生しました。以前には、ユリカモメやサギなどでも同様の被害がありましたが、今回は大型で集団行動する「カワウ」が飛来し、西側を中心(湊町エリアから戎橋付近)とした全域で糞害が発生。近隣ビルの高所などからも糞をするので被害箇所も広範囲にわたり、清掃担当の床面洗浄だけでは対処困難となり、河川・渡船管理事務所による高圧洗浄機での糞除去と床面等洗浄を行いました。抜本的な対策は難しく、対応を大阪市と検討中のところ 2022年3月中旬には姿を見なくなり一旦終わりました。



鳥の糞害状況 (2022.2月)

1-3、連絡・調整会議（大阪市建設局、南海電鉄理）

2018 年度から管理運営における情報共有警や課題への迅速な対応、新たな活用方法の事前調整などを主な目的として定期会議の場を新たに設け、2019年度から2021年度までに、延べ 11 回を開催して取り組んでいます。

新たな賑わい施策のウォールアートをはじめ、遊歩道床面をラッピングした PR イベントなど、この会議を通じてタイミングを逃すことなく調整を図り実現、また集団飲食、ゴミ放置や鳥の糞害などの現状を共有し、課題等への適切な対応策を相互調整のうえ改善に努めました。

1-4、令和 3 年度 かわまち大賞の受賞（道頓堀川における大阪市かわまちづくり）

2021(令和 3)年 12 月に令和 3 年度「かわまち大賞」の表彰式が国土交通大臣室で執り行われ、推進主体として、大阪市、南海電鉄、道頓堀川水辺空間利活用検討会の各代表が参加しました。



〔2022 年 12 月 23 日 授賞式の画像〕

【受賞箇所の取組及び評価】（国土交通省 かわまち大賞 報道資料から抜粋）

題 名

「水の都・大阪」における道頓堀川の水辺整備と水辺空間利活用の制度要望、公民連携の多様な賑わいづくりによる、かわとまちが一体となった魅力的な水辺空間の創出。

かわまちづくりの特長

- ・ 行政間の連携だけでなく、民間等による沿川地域の開発と連携した一体的な水辺遊歩道や橋梁、船着場等を整備することで個性的な水辺空間を創造している。
- ・ 都市・地域再生等利用区域の指定により、公募で選定した民間事業者が包括的に占有しており、賑わい創出のために民間企業のネットワークや情報発信手法を駆使して、多様なイベント等を実施している。
- ・ 学識・沿川地元代表者・行政からなる検討会において、地域住民や各種団体等の意見聴取を行い合意形成を図りながら、活動を行っている。

評価のポイント

- ・ 道頓堀川は、全国に先駆けて先進的な規制緩和のスキームを使い、遊歩道を作って人の流れを変えたり、水辺空間や周辺の建築物を甦らせたり、舟運を実施してまちの中の水辺の価値向上を図ってきた。その活動実績は高く評価できる。
- ・ 乗船している人と橋の上にいる人が互いに手を振り合うフレンドリーな光景や、川沿いのお店の雰囲気や看板・垂れ幕など、大阪らしい賑やかな雰囲気の醸成に貢献しており、高く評価できる。

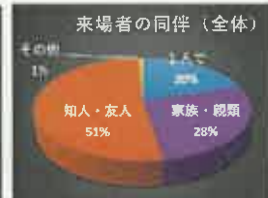
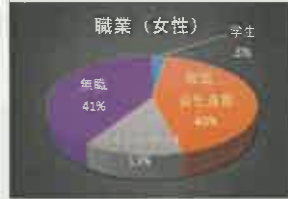
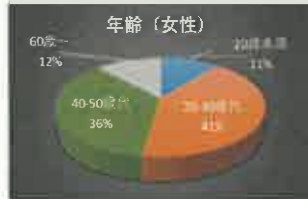
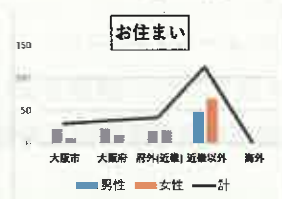
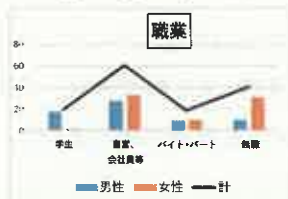
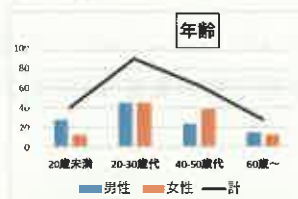
1-5、遊歩道でのアンケート集計概要(2019年9月実施分)

調査時間 10:30~15:00

回答:221名

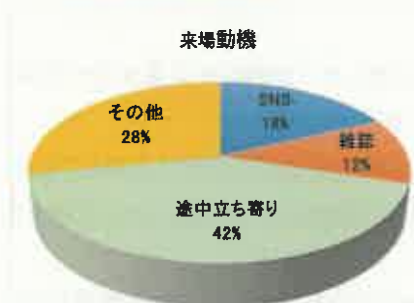
【問1】基本情報

年齢	性別	20歳未満	20-30歳代	40-50歳代	60歳～	学生	専業主婦・主夫	会社員等	無職	大阪府	大阪府内	近畿圏内	近畿圏外	海外	1人で	家族・親類	知人・友人	その他
男性	112	28	45	24	15	10	20	0	10	22	22	10	40	1				
女性	109	12	45	39	13	2	33	10	31	8	13	20	60	1				
計	221	40	90	63	28	20	61	10	41	30	35	30	100	2	44	61	114	2



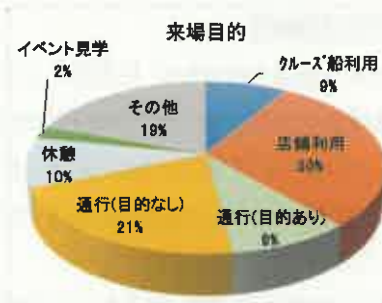
【問2】来場動機

来場動機	SNS	雑誌	途中立ち寄り	その他
	40	26	93	62



【問3】来場目的

目的	コース船利用	店舗利用	行(目的あり)	行(目的なし)	その他
	19	66	21	46	21



【問4】遊歩道にある飲食店について

沿川飲食店の認知	知っている	知らない	利用あり	利用なし
	115	106	131	90

遊歩道の飲食店について



飲食店の利用(予定含む)



知らないのと回答したなかで
利用した(予定含む)方は 39%

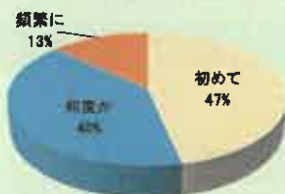
【問5】 遊歩道について

遊歩道	知っている	知らない	初めて	何度か	頻繁に
	101	120	103	89	29
	101		26	53	22
		120	77	36	7

とんぼりリバーウォークを
ご存知ですか



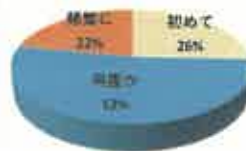
来場頻度 (TOTAL)



知らない⇒来場頻度

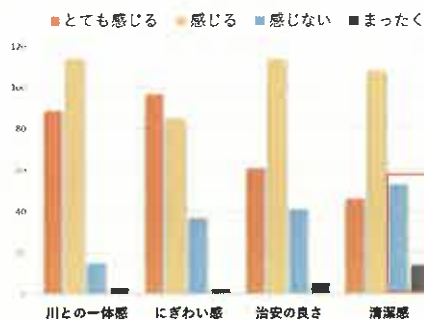


知っている⇒来場頻度



印象	とても感じる	感じる	感じない	まったく
川との一体感	89	114	16	3
にぎわい感	97	85	37	2
治安の良さ	81	114	41	5
清潔感	46	108	53	14

遊歩道の印象

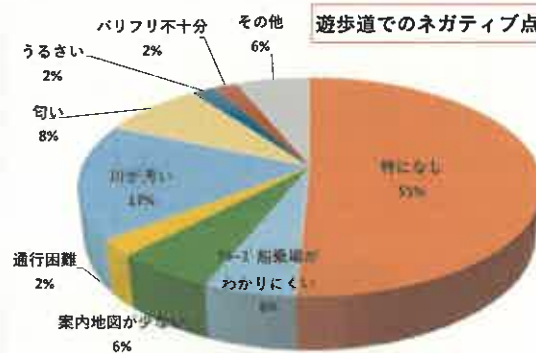


「感じない」・「まったく」での回答中
8.2% が道頓堀橋～太左衛門橋間の
回答者であった。(右岸・左岸は均衡)

【問6】 遊歩道での印象が悪かった点

特になし	コース/船渠/案内地図が通行困難	川が汚い	匂い	うるさい	バリアその他
130	14	15	6	44	21
				5	5
					16

遊歩道でのネガティブ点

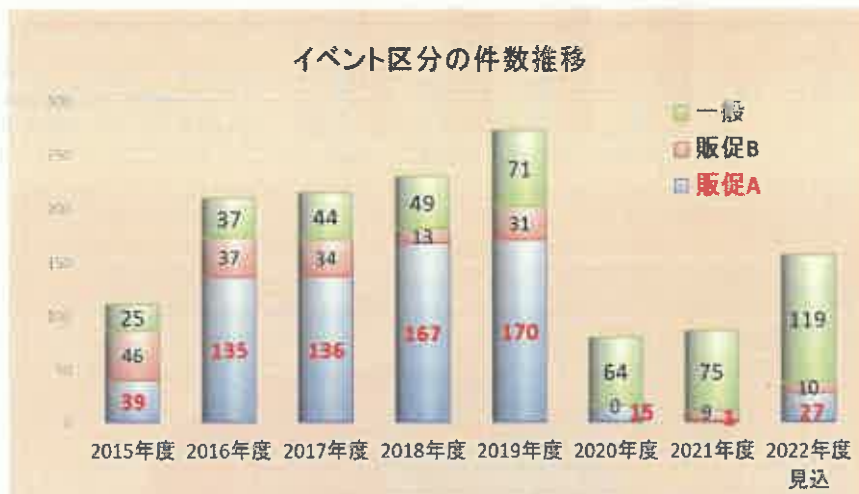


<2>, 2022 年度の管理運営状況について

2-1, 販わい創出について

【 イベント等開催状況一覧 】

	第Ⅰ期			第Ⅱ期				第Ⅲ期			
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 見込
イベント実施件数	60件	62件	90件	110件	209件	214件	229件	272件	79件	85件	156件
ロケーション撮影件数	8件	10件	27件	11件	31件	28件	48件	29件	15件	19件	15件
独立型店舗出店件数	－	－	－	1件	1件	2件	1件	1件	0件	0件	0件
広告利用件数(月単位の積算)	1件	2件	0件	1件	3件	0件	0件	23件	30件	24件	24件
オープンカフェ契約店(最多月)	8店	13店	17店	22店	31店	38店	44店	45店	33店	25店	32店



イベント区分

<一般>

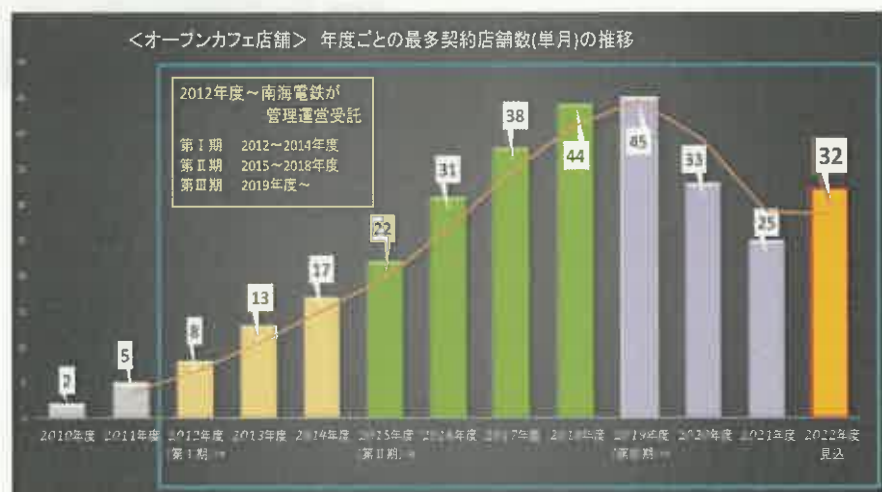
公共・地域振興団体等が実施主体
販売促進や PR を伴わないイベント

<販促B>

公共・地域振興団体等が実施主体
販売促進や PR も実施するイベント

<販促A>

民間・産業振興団体等が実施主体



① 道頓堀橋下通路 中央区による賑わいパネル展示（追加） 2022 年 4 月～

道頓堀橋下の左(南)岸通路に 2020 年 10 月から道頓堀を紹介した「いまむかし」などの大型パネルに続き、2022 年 4 月からは対岸の右(北)岸通路にて「船場のにぎわいパネル」計 30 枚(多言語解説あり)を大阪市中央区役所主催で南海電鉄と設置しました。



② 植栽関係(入替え・植替え) 2022 年 7 月

定期的に、フェイクフラワープランターを入替えて造花の色褪せに対応しました。今年度は、花壇の植栽に「大阪府花き園芸連合会」のご協力により、花株提供のみならず専門的知見による全体デザイン・花の植替えまで実施いただきました。

● フェイクフラワープランター入替え 2022 年 7 月

- 実施日/2022年7月13日(水) (太左衛門橋～相合橋間と大黒橋～新戎橋間)
- 開催内容/造花プランター入替え
- 主催者/南海電鉄



● 花壇植栽の植替え 2022 年 7 月

- 実施日/2022年7月14日(木)花壇植栽(深里橋～大黒橋)
- 開催内容/花壇除草および花の植栽
- 主催者/大阪府花き園芸連合会



③ 展示関係 2022年8月、12月

新戎橋～道頓堀橋間の境界パネルを活用したポスターや図画の展示を行いました。大阪市消防局主催による防火・防災図画募集の優秀賞作品の展示だけでなく、入賞者を招いた道頓堀川クルーズを体験乗船するイベントも開催され、防災意識の啓発活動に繋がっています。

大阪検定ポスター展

- 開催日時／2022年8月16日(火)～9月16日(金) 新戎橋～道頓堀橋(北岸)
- 開催内容／大阪検定告知企画(ポスター展示)
- 主催者／大阪商工会議所・南海電鉄



大阪市消防局イベント(防火・防災図画 優秀作品展示 & 入賞者招待クルーズ)

- 開催日時／2022年12月10日(土)～2023年3月末 新戎橋～道頓堀橋
※クルーズイベント 12/10(土) 10:00～12:00
- 開催内容／・大阪市内の小学生が「火災予防」等をテーマに描いた作品4,771点から選ばれた優秀作品31点を展示。
・入賞者とその家族を招待したイベント開催(道頓堀川クルーズへの体験乗船など)。
- 主催者／大阪市消防局、南海電鉄



入賞作品の展示状況(新戎橋～道頓堀橋 北岸)



2022/12/10 入賞者を招いたイベントの様子

④ 2022 イルミネーション「光と水のワンダーランド」

■開催日時／2022年11月3日(木祝)～2023年3月12日(日) 点灯:16:00～24:30

■開催内容／イルミネーション

■主催者／南海電鉄

2022年度は、以前からの西側エリアへの取り組みを拡充させるべく、30m にわたる光の通路を出現させました。ウォールアート前に設置して相乗効果を狙いました。



光の通路

⑤ ウォールアート(アート制作・展示) 2022年11月、12月

新たに2作品を制作・追加しました。いずれもアメリカ ロサンゼルス在住のアーティストの方々と、海外アーティストの間では、このアート群がSNSで話題になっているようです。

■左(南)岸 2022.11月 製作



■左(南)岸 2022.12月 製作



⑥ ロケーション撮影からの話題性

2022年度で特筆すべき事項として、テレビ番組撮影でウナギの生息調査をした際に、道頓堀川にて絶滅危惧種の二ホンウナギ11匹が捕獲されました。撮影には、大阪府立環境農林水産総合研究所の研究者も同行出演していたことで、道頓堀川で初となる「学術的な調査によるウナギ生息確認」がニュースなどで大きく話題となっていました。



2-2、現場管理（警備・清掃）

2022年度 下期～ 取り組み強化内容

- 〔警備体制の強化〕 金曜・休日、祝前日の夕方 16 時～20 時 **1 名増の配置**
 〔清掃日数の増強〕 全日対応(週 2 日の休業日を**撤廃**) **+52 日**

● 緊急通報 110 番、119 番について

特に夜間時等では、泥酔者が遊歩道で寝ているケースが目立ちました。冬季の外気温や体調状態(意識不明など)で生命にかかわるため、警備担当者には速やかな対処を指示しています。

また、戎橋下に若者が集まって騒いだり、遊歩道上での集団飲食、スケートボード利用など注意を促しても聞き入れてもらえない場合なども第三者行為に及ぶケースを鑑み、110番通報をするケースもあります。

2022年度は、前年よりも「110 番」、「119 番」通報とも増加傾向で推移しています。



緊急時における警察官への連携

■ 119 番通報 内容:泥酔者、傷病者などの救急要請が中心



【救急・消防】119番 通報件数

	2020年度	2021年度	2022年度
4月	0	0	2
5月	1	1	1
6月	1	0	1
7月	3	0	1
8月	2	1	2
9月	1	1	1
10月	0	0	0
11月	0	1	0
12月	1	1	4
1月	0	0	
2月	2	0	
3月	0	1	
合計	11	6	12

■ 110 番通報 内容:スケボー、集団占拠、泥酔者、横臥、喧嘩など



【警察】110番 通報件数

	2020年度	2021年度	2022年度
4月	2	0	1
5月	6	4	2
6月	9	1	5
7月	9	2	2
8月	5	8	8
9月	5	4	9
10月	5	7	4
11月	2	4	3
12月	3	5	8
1月	0	3	
2月	3	0	
3月	2	5	
合計	51	43	42

● 南警察署との個別協議を実施

南警察署の副署長、生活安全課長、刑事課長、交通課長と課題に対しての情報共有と対応策協議を行い、まずは制服警察官の巡回強化と随時情報共有を行えるように要請をしました。

<課題と情報共有のポイント>

- ① スケートボード(施設破損、通行者との接触、騒音など)
- ② 戎橋下での若者の対応(違法行為や深夜の見回り強化)
- ③ 落書きの発生状況(主に大黒橋周辺)
- ④ その他、緊急時通報など



戎橋下に集まる若者の様子



落書きの状態(大黒橋付近)

● 試行的な取り組みについて

戎橋下で若者が集まることへの対策として、補導等を強化したとしても一時的に一定効果があると考えられますが、根本的な解決まで至らず、仮に戎橋下から居なくなったとしても別の場所に集まるなどが想定され、また、犯罪等に巻き込まれないよう前途と違ったアプローチも検討していたところ、中央区役所(保健福祉担当部署)から若者への相談と支援による活動をされている団体があるとのことと繋いでいただきました。

福祉的な支援活動の実現に向けて河川課とも協議調整を行い、まずは試行的に 2022 年8月から『ミナミ(街中)アウトリーチ』として開始し、毎月2~4回の活動を継続されています。

● ミナミ(街中)アウトリーチ

■開催日時/2022 年 8 月～ 道頓堀橋～戎橋(北岸)ほか 17:00～20:30

■開催内容/主に戎橋下に集まる 10 代若者を対象に支援活動・関係性づくりを通じて
対話による抱える社会課題改善の試み

■主催者/ 認定 NPO 法人 D×P



開催状況(8月～11月) 道頓堀橋～戎橋(右岸)



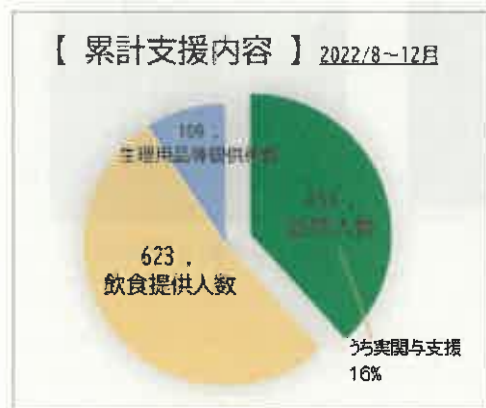
※場所変更 2022/12月～
新戎橋～道頓堀橋(右岸)

● 2022/8月～2023/1月末 延べ 19回を開催

具体的には、その場に集まる若者との距離を縮める「関係づくりが必要」となるため、遊歩道にブーステントを設置し、対話がしやすいフリーカフェ形式で始めています。スタッフには、提携している医療機関からも時折参加されるなど、専門的な相談体制を作られています。

若者との対話の中で、「お金もなく、食べるものや泊まる場所がない」、「相談したり頼れる人がいない」、「暴力を振るわれる」など、問題を抱えている現状が浮き出てきています。

今後の展開として、現行の活動手段が目的とならないようにする点、いつでも相談支援が受けられる拠点(居場所)の確保や公的機関・専門機関等との具体的な連例支援体制などについて主催者、行政等と継続して話し合っています。



【 性別 】



【 年齢 】



【 出身地 】



今後の事業目的・予定 認定NPO法人 D×P

大阪ミナミでD×Pが運営させていただいているアウトリーチ事業の目的は、家庭などで困りを抱えて繁華街に繰り出し、なんらかの被害につながりやすい状況にある10代に対して、①安心して個別に話ができる機会をつくり、②大切にされる経験を通して次のアクションを考えられる場をつくることです。以下、3つの取り組みを進めていきたいと考えております。

①テントでのフリーカフェ

対象:
グリ下にいる10代

目的:
・否定せず聞かせる人との出会いをつくる
・話してみようかと思えるつながりをつくる

内容:
・飲食や充電、生理用品などの無料提供
・雑談などでの関係性づくり

課題: 加害者と被害者が一緒なので、ゆっくり話せないことがある

今後: ③が形になった際にはテント自体の在り方や開催頻度の変更を検討

②居場所となる拠点づくり

対象: 女性(≠被害にあいやすい層)

目的:
・健康で文化的な時間を過ごすことができる
・話して良かった、これからの選択肢が何かあるかもと思える機会をつくる

内容:
・中央区内にテナントを借り、週1～2回自由に来室できる場所をつくる
・一緒に読書ができ、食事が取れる
・様々な人との出会いやひとりひとりのニーズに応じた機会提供を行う

課題: 根本的に安心して眠れたり食べたり、人から大切にされる経験が足りない

③一時的に寝泊まりできる拠点づくり

対象: 女性(≠被害にあいやすい層)

目的:
・生活を通して大切にされる経験を得られる
・今後のアクションを考えられる時間をつくる

内容:
・1日～寝泊まりができる
・食事を取ることができる
・生理用品、衣類など必要な物を持ってくる
・個別にこれからについて相談ができる

課題: 数か月単位で過ごせないと感じる場合がある

ミナミの繁華街で 孤立する10代に出会う 街中アウトリーチ企画

参考資料

認定NPO法人D×P（ディーピー）

※企画書から抜粋転載

団体概要

- 団体名 認定NPO法人D×P（ディーピー）
- 所在地 大阪市中央区天満橋京町1-27ファラン天満橋33号室
- 設立 2012年6月27日
- 認定NPO法人格の取得 2015年6月8日
- スタッフ数 21名（うち職員14名、相談員等業務委託7名、インターン2名）
- ボランティア数 約830名
- 月額寄付者数 2,506名

※人数は2022年6月1日時点

D×Pが取り組む社会課題

10代の孤立

不登校・中退・家庭内不和・経済的困難・いじめ・虐待・進路未定・無業などによって、いくつかの安心できる場や所属先を失ったときに起こります。特に日本では若年層に対する予算を割くことが難しく、対応が後手になりやすい分野でもあります。



d/p

10代の孤立を解決するためにD×Pが取り組むこと

オンラインと対面（学校）で出会い、関係性を築き、ひとりひとりの自立につなげています。



ミナミの繁華街で孤立する10代が集まる

家庭、学校などに居場所がなく孤立する10代がSNSを介してつながり、繁華街に集まっています。

また、虐待やDVなどから逃げ、あてもなく繁華街で過ごす若者もいます。

しかし、繁華街には、若者を搾取しようと狙う大人も集まっています。

▼読売新聞 2021年11月29日記事

大阪ミナミ「グリ下」・東京「トー横」、罵詔雑言の若者…「家にいたくない」SNSで集う

「グリ下」と呼ばれる大阪、若い世代の若者が集まる場所が、大阪・道頓堀や心斎橋などにあるグリッドの裏手の一角に、東京「トー横」も同様。飲食や飲み屋の閉鎖や営業時間の短縮によって、若者の居場所が、若者たちの「居場所」となっている。SNSで集う若者たち、その中には、虐待やDVなどから逃げ、あてもなく繁華街で過ごす若者もいる。SNSで集う若者たち、その中には、虐待やDVなどから逃げ、あてもなく繁華街で過ごす若者もいる。



選択肢がないまま搾取される現状

繁華街DV、虐待などから逃げてきた、家庭が機能していないなど孤立していたり、衣食住を得ることができない状況で、「今」生きることに関心一杯であることも多いです。

選択肢がないまま、性的搾取や犯罪に巻き込まれるなどの搾取をされる現状があります。

▼ABCニュース 2022年4月21日

【ABC特報】「私を慰め止めてくれるものって？」「パロ」する少女たち 通称のトンネル

ABCニュース



「私を慰め止めてくれるものって？」「パロ」する少女たち 通称のトンネル
（写真：ABCニュース）

相談できない現状

様々な相談サービスが世の中にありますが、相談に来られている方の数自体も多く、その対応で手一杯の場合も多いです。もし相談したとしても、たらい回しにされることもあります。

それだけでなくD×Pに関わる10代から「相談したら迷惑がかかると思う」「相談したいと思わない」と言った声もあり、相談自体に抵抗がある場合もあります。

▼産経新聞 2021年5月27日

「私が悩んでいいじゃない」 高分産婦人科に悩む



「私が悩んでいいじゃない」 高分産婦人科に悩む
（写真：産経新聞）

街中アウトリーチ企画概要

■目的:

ミナミに集まる10代にこちらから出会いに行き、否定せず関わりながらの頼れるつながりを届ける。

■実施場所:

・戒橋周辺

■実施内容:

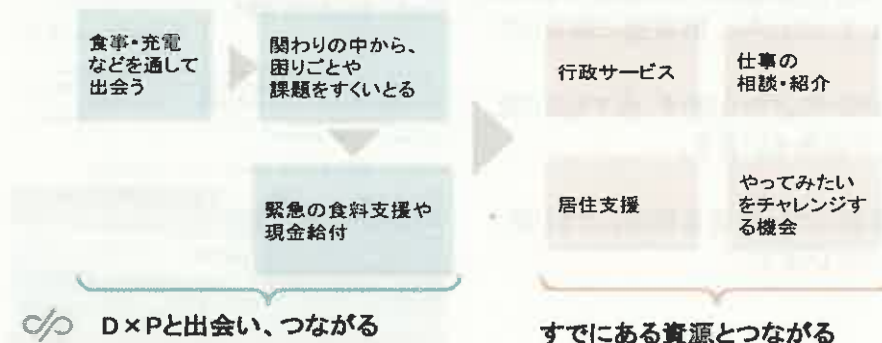
- ・食事、充電、衛生用品、生理用品の配布
- ・周辺にいる若者に声掛け、雑談など関係性づくり
- ・必要な社会資源へとつなぐ

▼配布品イメージ



街中アウトリーチからその先へ

地域、行政、NPO、企業と連携し、10代が孤立しない仕組みをつくります

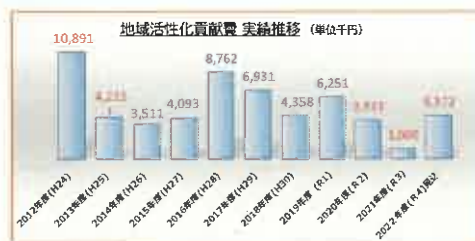


2-3、収入(2022年度 実績見込)

【実績比】					(税別 千円)		補足説明
	2019年度 【実績】	2020年度 【実績】	2021年度 【実績】	2022年度(a) 【上期実績・下期見込】	増減額(b)	増減率(b/a)	
(A) 業務委託料計	31,310	31,310	31,310	31,310	0	0.0%	
広告	5,240	5,640	5,280	5,280	0	0.0%	
イベント	8,121	1,280	475	2,323	1,848	389.1%	
ロケーション撮影	1,573	724	934	835	▲ 99	▲ 10.6%	
オープンカフェ	11,116	8,674	8,039	9,432	1,393	17.3%	
船着場利便施設	310	310	310	310	0	0.0%	
独立型店舗	397	0	0	0	0	#DIV/0!	
その他				7,821	7,821	#DIV/0!	
(B) 利用料収入計	26,757	16,628	15,038	26,001	10,963	72.9%	
① 収入合計 (A+B)	58,067	47,938	46,348	57,311	10,943	23.7%	
河川占用料金	545	536	561	536	▲ 25	▲ 4.5%	
警備料	16,158	17,848	17,848	19,107	1,259	7.1%	※2022年下期～ 金土曜・祝前日 16:00～20:00 人員1名追加
清掃料	2,869	3,224	3,224	3,830	606	18.8%	※2022年下期～ 休業日撤廃（前年比 52日増）
諸経費等	30,507	29,405	23,536	24,170	634	2.7%	
(内) 人件費(付帯含む)	23,494	22,931	18,614	18,386	▲ 228	▲ 1.2%	※2021年(第20～) 組織改正により人員減 3名→2名
備用品費	42	0	0	10	10	#DIV/0!	
委託料	5,742	5,742	4,140	5,273	1,133	27.4%	※イベント管理：契約内容見直
広告宣伝費	392	360	360	360	0	0.0%	
通信運搬費	96	122	110	72	▲ 38	▲ 34.5%	
損害保険料	121	114	71	28	▲ 43	▲ 60.6%	
経費	164	1	5	0	▲ 5	▲ 100.0%	
その他	88	75	203	20	▲ 183	▲ 90.1%	※前年度 初期イルミ等除却費
諸税・減価償却	368	60	33	21	▲ 12	▲ 36.4%	
② 費用合計	50,079	51,012	45,168	47,643	2,475	5.3%	
③ 地域活性化貢献費	6,252	3,933	1,000	4,372	3,372	337.2%	
営業損益 (①-②-③)	1,736	▲ 7,007	180	5,296	5,116	2842.2%	

【③地域活性化貢献事業費】(南海電鉄が地域活性化への貢献事業として支出した費用)

年度	年度実績 (税別千円)	
2012年度(H24)	10,891	上期：とんブラ2012 <4,422千円>、千日大法会 <1,133千円> 下期：イルミ <2,910千円>、とんぼり乾杯バルフェスタ <2,425千円>
2013年度(H25)	4,215	上期：とんブラ2013 <2,630千円> 下期：イルミ <1,585千円>
2014年度(H26)	3,511	上期：とんブラ2014 <1,425千円>、絵画展示 <174千円>、植栽イベント <548千円> 下期：イルミ <1,585千円>、植栽イベント <127千円>
2015年度(H27)	4,093	上期：プランター植栽 <517千円>、絵画展 <180千円>、とんブラ2015 <1,850千円> 下期：イルミ <1,200千円>、植栽イベント <346千円>
2016年度(H28)	8,762	上期：植栽関係 <465千円>、絵画展 <323千円>、とんブラ2016 <2,000千円> 下期：イルミ <2,000千円>、春節イベント <3,675千円>、植栽関係 <300千円>
2017年度(H29)	6,931	上期：植栽関係 <510千円>、とんブラ <2,002千円>、南海京阪154 <1,500千円>、絵画展 <155千円> 下期：イルミ <2,000千円>、植栽関係 <194千円>、万博誘致広告製作等 <570千円>
2018年度(H30)	4,358	上期：植栽関係 <550千円>、とんブラ <1,080千円>、絵画展 <138千円> 下期：イルミ <2,728千円>、植栽関係 <61千円>、万博誘致広告製作等 <130千円>
2019年度(R1)	6,252	上期：植栽関係 <883千円>、とんブラ <69千円>、絵画展 <184千円> 下期：イルミ <4,800千円>、植栽関係 <316千円>
2020年度(R2)	3,933	上期：植栽関係 <807千円> 下期：イルミ <2,390千円>、植栽関係 <736千円>
2021年度(R3)	1,000	下期：イルミ <1,000千円>
2022年度(R4)見込	4,372	上期：植栽関係 <712千円>、とんブラ <115千円>、絵画展 <155千円> 下期：イルミ <1,185千円>、南海電鉄 <155千円>



【とんぼり事業 損益】

	単年度 営業損益	各期での 累計営業損益	累計営業損益
2012年度(H24)	▲ 11,242	▲ 11,242	
2013年度(H25)	▲ 3,324	▲ 14,566	
2014年度(H26)	▲ 2,286	▲ 16,852	
第1期 計	▲ 16,852		▲ 16,852
2015年度(H27)	▲ 966	▲ 966	
2016年度(H28)	678	▲ 298	
2017年度(H29)	2,501	2,213	
2018年度(H30)	2,370	4,583	
第2期 計	4,583		▲ 12,269
2019年度(R1)	1,736	1,736	
2020年度(R2)	▲ 7,007	▲ 5,271	
2021年度(R3)	180	▲ 5,091	
2022年度(R4) 見込	5,296	205	
第3期 計	205		▲ 12,064

